

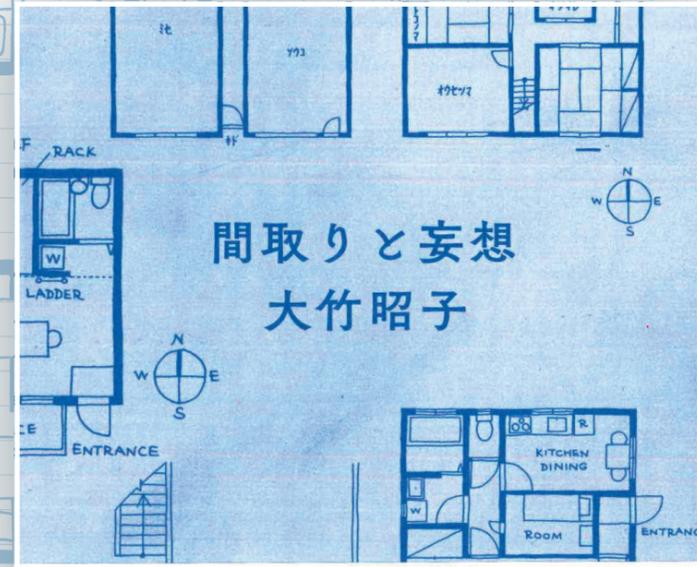


藤森照信氏 (建築家)
 堀江敏幸氏 (小説家)
 岸本佐知子氏 (翻訳家)

間取り図の中で、人々が、物語が動きだす——。
 新しい感覚の傑作短編小説集、登場！

大竹昭子著

間取りと妄想



“世界初”の間取り小説集!

まず家の間取りを決め、次にそこで展開される物語を書いたのは大竹さんが世界初だろう。たぶん。13の間取りと13の物語。

——藤森照信氏 (建築家・建築史家)

川を渡る船のような家。海を見るための部屋。扉が二つある玄関。そっくりの双子が住む、左右対称の家。わくわくするような架空の間取りから、リアルで妖しい物語が立ちのぼる。間取りって、なんて色っぽいでしょう。

——岸本佐知子氏 (翻訳家)

堀江敏幸氏 (作家)

家の間取りは、心身の間取りに似ている。思わぬ通路があり、隠された部屋があり、不意に視界のひらける場所がある。空間を伸縮させるのは、身近な他者と過ごした時間の積み重ねだ。その時間が、ここではむしろ流れを絶つかのように、静かに点描されている。

